

【大学・一般の部】最優秀賞

つながる日々、ひろがる未来

大分市 西嶋 しのぶ

気づけば、大分に来て十二年が経つ。

当時三歳だった長男は中学生に、大分で生まれた次男も来年は中学生になる。時の流れは本当にあつという間だ。

大分に来たばかりの頃は、分からぬことばかりだった。土地勘もなく、知り合いもいない。「ここで暮らしていくのだろうか」と、不安でいっぱいだった。

けれど、子どもたちが幼稚園に通い、少しずつ話せる人が増え、子どもたちにも友達ができたことで、暮らしは少しずつ変わっていった。人とのつながりが生まれると、不安は少しずつ和らぎ、毎日が楽しくなっていった。

さらに私の暮らしを大きく変えたのは、ラジオパーソナリティという仕事だった。

大分に来て二年目ぐらいに始めたその仕事は、私にとって大きな転機であり、未知の世界への一歩でもあった。

音楽と地域の話題を伝える中で、地名の読み方や発音を間違えて恥ずかしい思いをしたこともある。でも、そうした経験を重ねるうちに「もっと大分のことを知りたい」という思いがどんどん強くなっていた。

そしてリスナーから届くメッセージにも育ててもらった。「紅葉がきれいだよ」「このお店の○○はおすすめ」などと聞けば、必ず確かめに出かけた。自分の目で見て、耳で聞いて、体で感じることで、私にとってかけがえのない場所がどんどん増えていった。

一方で、子育てもまた私に学びを与えてくれた。地域の人や友人に助けてもらいながら暮らす中で、人のつながりがあると、子育ても暮らしもこんなに豊かになると気づくことができた。そして、支えてもらうだけではなく、「私もこの大分のために何か力になれることがあるかもしれない」とも思うようになった。

そこで始めたのがボランティア活動だ。サンタクロースに扮して家庭や病院、施設などを訪問し、子どもたちに特別な思い出を届ける活動を四年前に始めた。災害ボランティアとしても活動している。また、おおいた子ども・子育て応援県民会議の公募委員も務めたことで、今の子どもたちの置かれた環境や抱えている課題も見えてきた。

こうした経験を通じて気がついたのは、大分には子どもを中心に考え、安心して育つ環境を作ろうと努力する大人がたくさんいるということだ。子育てをしている親として本当にありがたく思う一方、まだ必要な支援やサービスがあることも感じる。だからこそ、もっと子どもに優しい大分になってほしい。そして、その歩みに少しでも力を添えられたらと思う。

これから先、私は大分でどんな未来を歩んでいくのだろう。

私が大切にしたいのは、いつでも挑戦を楽しむ自分でいることだ。回り道もあったけれど、これまでいろいろな挑戦を重ねてきた。その姿を子どもたちに見せて、「失敗しても、回り道でも、やってみれば道は開ける」ことを伝えられると信じている。

そして、ふるさとの未来について考えるとき、私が願うのは「子どもが安心して挑戦できる大分」だ。豊かな自然の中で育ち、人とのつながりに支えられ、子どもたちは夢を自由に語り、挑戦し、失敗してもまた立ち上がることができる場所。そんな大分を次の世代に残していきたい。

県外から来た私にとって、最初は「知らない場所」だった大分。けれど今では、子どもと共に歩み、成長してきたかけがえのない場所となっている。これからも大分で得た学びや経験をもとに、人と人をつなぎながら、ふるさとの未来を描いていきたい。

「わたしの未来」と「ふるさとの未来」はきっと重なっている。

だから、未来のために私はこれからも挑戦を続けていく。